概要版

山形県農林水産部

第１回専門職大学基本計画検討委員会の開催結果について

１　日　時　　令和２年５月29日（金）　14:00～16:30

２　委員会出席者

〇会長　　生源寺眞一（福島大学食農学類長）

〇委員

芦谷竜矢（山形大学農学部教授）、今井敏（(独）農林漁業信用基金理事長）、小沢亙（山形大学農学部教授）、北柴大泰（東北大学農学部教授）、嶋村和恵（早稲田大学商学学術院教授）、野堀嘉裕（山形大学名誉教授）、村松真（山形大学地域教育文化学部准教授）、五十嵐一雄（山形県認定農業者協議会会長）、早坂和紀（早坂果樹園）、八鍬良則（(株）ムラサキ農産代表取締役）、阿部多喜子（金山町森林組合森林施業プランナー）、遠田勝久（(有）遠田林産代表取締役）、今田裕幸（山形県農業協同組合中央会常務理事）、阿部清（(公財）やまがた農業支援センター専務理事）、舟越利弘（山形県立農林大学校校長）、片桐寛英（山形県教育次長）

３　会議の概要

事務局から「３つのポリシー※」及び「学部・学科構成等」について資料により説明の上、意見交換を行った。

※　ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施の方針）、アドミッション・ポリシー（学生受入れの方針）

【主な意見】

〇３つのポリシーについて

・３つのポリシーは、文部科学省の認可申請に向けたものはこれで良いが、それとは別に、学生に向けて専門職大学の特徴や特色を端的に示すものを情報発信すべき。例えば、展開科目は学年横断で学ぶ講義や演習などを行うこととしているが、これは大学の特色となる。一般の４年制大学と専門職大学との違いや、専門職大学卒業後の進路を分かりやすく説明することで、ＰＲにもなるし、学生募集にもつながると思う。

・専門職大学の３つのポリシーとしては良いと思う。専門職大学で養成する人材は、経営者として県の農林業を担う人材なので、４年間学んで実践力を身に付けられるよう、このポリシーとのつなぎ方を考えていく必要がある。

・ディプロマ・ポリシーについて、気候の違いなどの地域性、季節性の違いをよく理解することなども含まれてくる。

・４年制大学と専門職大学で特徴をつけるとしたら、カリキュラム・ポリシーに独特のもの（降雪や経済連携協定等の国際的なこと等）を入れた方がいいのではないか。

・林業系学科のカリキュラム・ポリシーについて、森林資源は木材だけではないので、特用林産物や加工なども踏まえた表現にしてはどうか。林業では、特用林産の学びもないといけないし、木工業の勉強もできると良いと思う。

・設置認可申請で、３つのポリシーの整合性をクリアする必要があることから素案のとおりで良いと思うが、今後、卒業後のキャリアパスなども念頭に、受験生向けに分かりやすくアピールしていく必要がある。
・専門職大学を卒業して５年10年でトップランナーになれるわけではないので、専門職大学が農林業経営者の育成に継続的に関わっていく必要がある。社会人への教育や研修などの機能も併せて考えてほしい。
・大学を卒業して就農したいという学生がいる。そういう学生が学びなおしをする場としても良いと思う。専門職大学の入学者選抜は高校生を主な対象にしていると思うが、多彩な方法で社会人なども選抜する内容にして欲しい。
・入学者の選抜をどのようにするかが重要。山形大学農学部と専門職大学は教育目標が違う。学生が入試の時に併願することが無いようにしないといけないと思う。
・学校の選択には、高校の先生、生徒の保護者も影響する。どんな姿に育てるのかを分かりやすく示して欲しい。
・高校生の中には、農業経営に関心がある生徒も結構多いが、その場合、東京農業大学に行くことが現状では多い。そういう学生が東京に行かずに山形で学べるのはありがたい。専門職大学で農業経営と最先端の農業を学べるということや、既存の大学の農学部や農林大学校と何が違うのか、そこを高校生に分かりやすく示すことが大事だと思う。
・基本構想には、「日本を牽引する農林業経営者（スーパートップランナー）の育成」とあるが、大学を出てすぐトップランナーになれるわけではない。どうやって育てるかが肝となる。
・専門職大学ができた暁には、農業法人を経営する者として、学生達が目標とするような経営を行わなければいけないと感じた。また、臨地実務実習には協力したいと考えている。

〇学部・学科構成等について

・学部学科構成は、農業系と林業系が一緒になった大学は多いが、やりにくさもあるので、２学科で良いと思う。
・複合経営を考慮して、農業学科の中にコースを設けないのは良いと思う。規模が大きくなっても、複合経営の考え方は大事。
・林業は、高校には学科がなく素人が入学してくるため、林業系学科内で更に細かな分野を分ける必要はないと思う。

〇カリキュラムについて

・単位数や配当時期、必修科目と専門科目のバランス、講義、演習、実習の組み立てをどうするかが重要になる。
・単位の配分について、目的がスーパートップランナーの卵、即戦力の育成だから実習が多いのはわかるが、せっかく４年間あるので、一般教養もしっかり学び、きちんとした大人を育てて欲しい。
・実習の単位が多いのは良いと思う。
・カリキュラムたたき台について、必修科目が多過ぎて選択科目が少ない感じがする。選択科目を増やせないか検討してみて欲しい。
・カリキュラムについては、学生への事前の周知、ＰＲが重要である。１年次から農業、林業に特化した専門的内容を学ぶことなどをアピールすると良いのではないか。

入学生が将来の姿をイメージして入ってきてもらうことが必要。

・グローバルな人材を育成していくことは大事だと思うが、そのためには「英語」や「海外農林業事情」のみで十分だろうか。カリキュラム内容については、もう一歩検討してみてはどうか。

・カリキュラムは、全体的には十分に考えられていると思う。林業については、職業専門科目に土木や機械関連の科目を入れてはどうかと思う。

・林業系学科のカリキュラムでは、「伐って、植えて、育て・利用する」ことや、山形県の林業に関する施策についての知識や実務を「やまがた森林ノミクス」を入口として、広く学べる内容にして欲しい。

・展開科目について、学年横断で学ぶ縦割りの授業は良いと思う。

・他学科の開講科目を自由聴講できる仕組みは良いと思う。

・展開科目に「建築学」があるが、森林施業において、木材の利用は大事な考え。木造建築は付加価値の高い利用であるので、林業学科については木造建築の基礎的な部分を必修科目にして欲しいと思う。

・職業意識を持つと、学ぶにあたって大変貪欲に吸収していく。例えば３年次以降に農業法人で有償のインターンシップを行うなど、専門職大学では職業意識を強く持たせる教育を行って欲しい。

・複合経営の学びについては、１年生はいろいろな経験をして、学年が上がるごとにだんだん絞り込んでいき、何を目指すのかを決めながら学修していくというイメージであり、絞り込んだ後に（自分が希望しない作目も含めた）横断的な学修を行う必要はないと思う。そういう育成のイメージをできるような書きぶりにしてもらえると良いと思う。

・農林大学校の学生は、特別講義等で、頑張っている農業法人の方の話を聞いた時に、「私もあのようになりたい、就農したい」と思う。専門職大学でも、全国の農業法人の方の話をリモートで聞いたり、出向いて勉強できる授業があると良いと思う。

・農林大学校のカリキュラムとの整合性をうまくつける必要があると思う。農林大学校から３年次編入してきた学生が、同じことを学ぶようではもったいない。

・高校普通科から入る生徒にとって、幅広く学べるのは良いと思う。一方で農業科から入る学生と普通科から入る学生のカリキュラムが同じでよいのか検討して欲しい。

・カリキュラムについては、木を見て森を見ずということにならないようにする必要がある。今後は履修モデルを示していくのも良いと思う。

以上